

## 2025 年度外国語学部 FD 活動方針・活動計画

(英米学科、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科)

外国語学部では 2025 年度には学部 FD 委員会および学部内部質保証委員会を軸として FD 活動を実施する。

学部 FD 委員会では、2024 年度には国際センターの藤掛千絵先生をお招きし、「COIL 型授業の課題と展望」と題して FD 講演会を実施し、近年注目を浴びる COIL 型授業の可能性と運用上の課題に関して教員の意識向上と情報共有をはかった。2025 年度も外部講師を招聘し、教育における新技術の導入や学生支援の効率化など、教育の改善に資する主題についての FD 講演会・研修会を開催する。

学部内部質保証委員会では、全学的な「教学マネジメント指針」に基づく「教育の質保証」の確立を目指して各学科の教育状況の見直しならびに情報交換を行う。昨年度以来の学部・学科ポリシーの再検討やカリキュラムマップの整備を継続するとともに、カリキュラム改革や教育方法の改善、課外活動や広報活動の充実についても検討する。

2025 年度の各学科の FD 活動方針・活動計画は以下のとおりである。

### 英米学科

- 1) 後任人事（アメリカ研究：専任 2 枠）の実施。少なくとも 1 枠は 2025 年 9 月採用を目指す。
- 2) 推薦入試（指定校）の条件及び対象校の検討を継続する。
- 3) 推薦入試、編転入試など学科で運営する入試の点検を行う。
- 4) 学科カリキュラムと有機的に結び付けた視点から、長期の派遣留学生数の維持および更なる増加を図る方策の検討を行う。
- 5) 学科の各授業科目をさらに充実したものにするには何が必要か、学科会議等で議論を深めていく。
- 6) 学科必修科目の内容および評価方法の検討を継続する
- 7) 学科運営のための学科内の役割分担の理想的な方法を模索する。
- 8) 講演会の実施
- 9) 英語教員セミナーの実施
- 10) Oral Interpretation Festival の実施
- 11) 学科内ミニ FD の実施も含めて、学科内 FD 活動をさらに充実させる。
- 12) COIL 授業や CJS の学生へのオープンコースの開放など、学生が外国人学生と学べる機会を増やすことを引き続き実施する。

### スペイン・ラテンアメリカ学科

- 1) 2025 年度は、新しくお迎えする教員はいないが、着任 5 年以内の教員が多くおり、学科

会議などを通じて学科内で適切なサポートを行い、スムーズに学科業務に入ってもらえるよう、学科全体で心がける。

- 2) ラテンアメリカ研究センターと連携を密にし、国内外の優れた研究者・実務家を招いて講演会・研究会を開催し、スペイン語圏に関する相互の意見交換と研究水準向上につなげる機会を持つ。
- 3) 国内外のカトリック大学との教育・研究面での協力・交流関係をさらに広げ、スペイン語圏に関する相互の意見交換と研究水準向上につなげる機会を持つ。
- 4) 学科必修スペイン語科目、あるいは、その他の言語科目については、引き続き、言語科目コーディネーターを中心に、学科会議を通じて運営上の微調整を行う。言語科目コーディネーターを中心として、ネイティブ教員に対しては、日常的な意見交換が行なわれているが、このような機会の範囲をより広くできないか引き続き検討する。
- 5) 外国語検定試験（DELE や西検）の受験状況に関する学科学生へのアンケートを 2025 年度も引き続き実施し、受験・取得状況の包括的な把握に努める。
- 6) 専攻制廃止を含めたカリキュラム改正について学科会議等で検討する。
- 7) 海外フィールドワークの持続可能なあり方について学科会議等で検討する。
- 8) 演習の実施方法、研究プロジェクトの評価方法について、引き続き学科懇談会などを通じて議論を深めていく。
- 9) スペイン語劇について、担当教員を中心に準備・上演する体制に変化はないが、学科のイベントであるということを再確認し、学科会議等で必要な情報共有などを行ない、支援体制を構築していく。

#### フランス学科

- 1) 円滑な組織運営のために、業務の効率化、各構成員を尊重した持続可能なコミュニケーションと情報共有を図る。
- 2) 教学マネジメントの枠組みにおいて行われる過年度卒業生調査、卒業時アンケート、企業アンケート、アセスメントテスト、学習行動調査、IR データ等による調査結果をふまえ、社会的ニーズを見据えた学修者本位の教育の実現のための教育課程編成を検討する。
- 3) 時間割編成、授業運営、開講科目のあり方等に関する点検を行い、授業におけるアクティブ・ラーニング、外交講座等の講師派遣、国際共修等を活用した取り組みを推進する。
- 4) 履修ガイダンスの開催、オフィスアワーの設置、ゼミにおける指導、学科ウェブサイトや SNS の充実に加え、学生同士の相互支援の促進を通じて学生の履修指導、留学支援、学習支援を継続する。
- 5) フランス語劇、各種フランス語スピーチコンテストなどフランス語を活かした各種課外活動への参加を奨励する。
- 6) フランス語教育の効果を測定し、その結果をさらにその後の教育に活かすため、実用フランス語技能検定、TCF、DELF などの外部語学試験の集団受験を促進する。

- 7) フランス語圏に関する専門的知識を有する専門家を招いて学生や教育スタッフの研究・教育支援に資する講演会を開催する。
- 8) キャリア支援課が提供するキャリア教育支援を活用して「キャリアを考えよう」や「学び方講座」を実施するとともに、学内企業説明会等の情報提供を通じて就職支援を行い、学生のキャリア形成に資する教育を充実させる。
- 9) 多様な学習環境を活かした学生支援を行うため、学生課による学生交流センター、国際センターが提供する各種学内留学のしくみ、情報センターのラーニング・コモンズなどへの理解を深め、学生への情報提供につとめる。
- 10) 大学のリソースを最大限に活用した学生支援と教育の内容・方法の改善を行うため、各部署・各種委員会が開催する FD/SD 講演会、ハラスメント講習会、入試報告会等に参加してスタッフの意識の向上を図る。

#### ドイツ学科

- 1) 学科運営が円滑に進むよう、教員同士のコミュニケーションを密にするとともに、特定の教員に負担が集中しないよう学科業務を適切に分担する。
- 2) 授業の質向上、および教員の資質・能力向上のため、学科専任教員・外国語教育センター所属 L.I.教員・非常勤講師の間で、学生の学習状況や授業の進捗状況についてクォーター毎に議論し、学習環境の充実を図る。
- 3) 学科教員による卒業論文の相互評価制度については、学科独自のルーブリックを作成すべきか、するとしたらどのような内容のものであるべきかについての議論を行う。また、ドイツ語関連検定試験の受験者数・合格者数をさらに増やすため、学内で周知して受験を促すとともに、合格レベルを上げるための方法を検討する。
- 4) 前年度に引き続き、秋学期にドイツから学生 2 名を招聘し、学科生との国際交流を活性化させる。また春学期には東京横浜独逸学園（Deutsche Schule Tokyo Yokohama）の生徒との交流も予定している。
- 5) ドイツ語弁論大会・暗誦大会の開催の活性化方法を模索するとともに、アクティブラーニング系授業の成果をどのように発表していくかについて議論する。
- 6) 学科 HP を定期的に更新し、学外への情報発信のプラットフォームと位置づけ有効活用を図る。HP のスマホ対応化を進めながら、受験生に学科の魅力を伝えていく。
- 7) 高校からの模擬授業依頼は可能な限り引き受け、学生の協力も得ながら、ドイツ学科の魅力を積極的にアピールしていく。また、生成 AI が発達した時代に外国語を学ぶことの意義について高校生が考える機会を提供し、外国語学部進学への意欲を高める。
- 8) 学生交流センター団体 Kreis およびドイツ文化研究会など、学科生の課外活動への支援を継続する。
- 9) キャリア教育については、引き続きキャリア支援課と連携しつつ、学科生向けのキャリア入門講演会を開催し、キャリア意識の形成および向上を図る。また、VGJ（フォルクスワ

ーゲングループジャパン) などの長期インターンシップの機会を学生に提供する。

#### アジア学科

- 1) 引き続き初年次の外国語科目と演習科目に重点をおいて学生の到達度を確認する。外国語についてはアンケートを実施して各種能力試験の受験および合格状況を把握する。
- 2) 専攻間における学生の人数バランスを保持するため、有効な方策について学科会議での検討を継続する。
- 3) 引率のあり方を見直した「海外フィールドワーク A／B」の実施状況を点検して 2025 年度の円滑な実施に向けて準備を進める。
- 4) ルーブリックに基づいた卒業論文の客観的な成績判定を継続する。
- 5) 効果的な学生指導ができるよう、引き続き学科教員間および学科教員と非常勤講師との緊密な連携を図る。
- 6) 学科特設 Web ページ、および学科公式 Instagram の活用方法を検討して、受験生や在学生に本学科の特徴を十分に伝えられるよう工夫する。
- 7) インドネシア語学習の意欲を高め、能力を向上させる一助として実施しているインドネシア語スピーチコンテストの開催に向けて準備を進める。
- 8) 中国・台湾およびインドネシアへの国費留学希望者に対する説明会や個別支援を継続する。
- 9) 2020 年度から始めた輔仁大学の学生との SNS を利用した交流プログラムを継続するとともに、大学の国際化推進事業の一環として学生を招聘して学科生との交流を一層充実させる。
- 10) キャリア教育については、引き続きキャリア支援課と連携しながら 1 年次生、2 年次生および 3 年次生に対して講習の場を設けて、キャリア意識の形成および向上を図る。

以上